

国際コンファレンス

「持続的・包摂的な成長に向けたアジア金融セクターの強化」

セッション3 「アジア地域の規制監督体制・枠組みの強化」

アジアにおける金融包摂の推進に向けた革新的な政策と 規制アプローチ

フィナンシャル・インクルージョン・アライアンス (AFI)
事務局長
アルフレッド・ハニング
AFI
シニアポリシーアナリスト
クラウス・プロチャスカ

概要

前回の世界的金融危機以降、世界の金融包摂には2つの相反するトレンドがある。北半球を中心とする先進国では、金融排除が拡大している。銀行貸出は低調に推移しており、今後も低迷を続けると予想され、中小企業や個人顧客は資金調達が困難になっている。一方、金融包摂のレベルが上がっていることも認められ、多くの場合携帯電話などの革新的なチャネルの利用を通じて伝統的なモデルを飛び越える形でもたらされている。発展途上国の多くでは、消費者保護や金融ケイパビリティという問題が課題の中心となっている。

アジアには、金融包摂への規制アプローチに関して豊富な経験がある。この地域は金融危機にうまく対処しただけでなく、金融包摂へのアプローチを政策立案者や規制機関の権限の一部とすることで、この分野を主導している。アジア大陸における現行の規制改革は3つの問題を中心に進められている。すなわち、技術面の問題、国際的な基準設定機関によって設定される規定の解釈及び適用の問題と、金融リテラシーの問題である。たとえば、フィリピンでは、銀行と携帯電話ネットワークのオペレーターのようなノンバンクの双方に、電子マネーの発行と顧客との取引チャネルとしての携帯電話の利用を認めている。パキスタンでは、規制の対象となる銀行について、顧客確認要件が緩やかな少額口座を導入するとともに、代理店の利用を通じたこうした顧客へのサービスの提供を可能にした。マレーシアは国民の金融リテラシーを促すための革新的プログラムを実施している。

フィナンシャル・インクルージョン・アライアンス(AFI)は、発展途上国の政策立案者や規制機関の間の組織的な意見交換を通じて、各国が互いの良い経験から学ぶためのプラットフォームを提供している。地域に特化したアプローチは、知識の共有を促進し、現時点では銀行を利用できない貧困層の可能性を開くことに貢献できる。